

5. 嘉瀬川の川づくりの進め方

5.1 関係機関・地域住民との連携

嘉瀬川を常に安全で適切に利用・管理する気運を高め、嘉瀬川の特性と地域風土・文化を踏まえ、「嘉瀬川らしさ」を活かしたより良い河川環境を、地域ぐるみで積極的に形成することを目的に、幅広く情報提供を行い住民との合意形成に向けた情報の共有化を図るとともに、定期的にあるいはプロジェクト毎に意見交換の場を設け、関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進していきます。

これらにより、地域住民が嘉瀬川に関わる機会を設け、日常の維持管理について、従来の河川管理者が行ってきた河川管理から、「憩いの場として愛される嘉瀬川を地域住民とともに」との認識に立った住民との協働による川づくりへの転換を図ります。

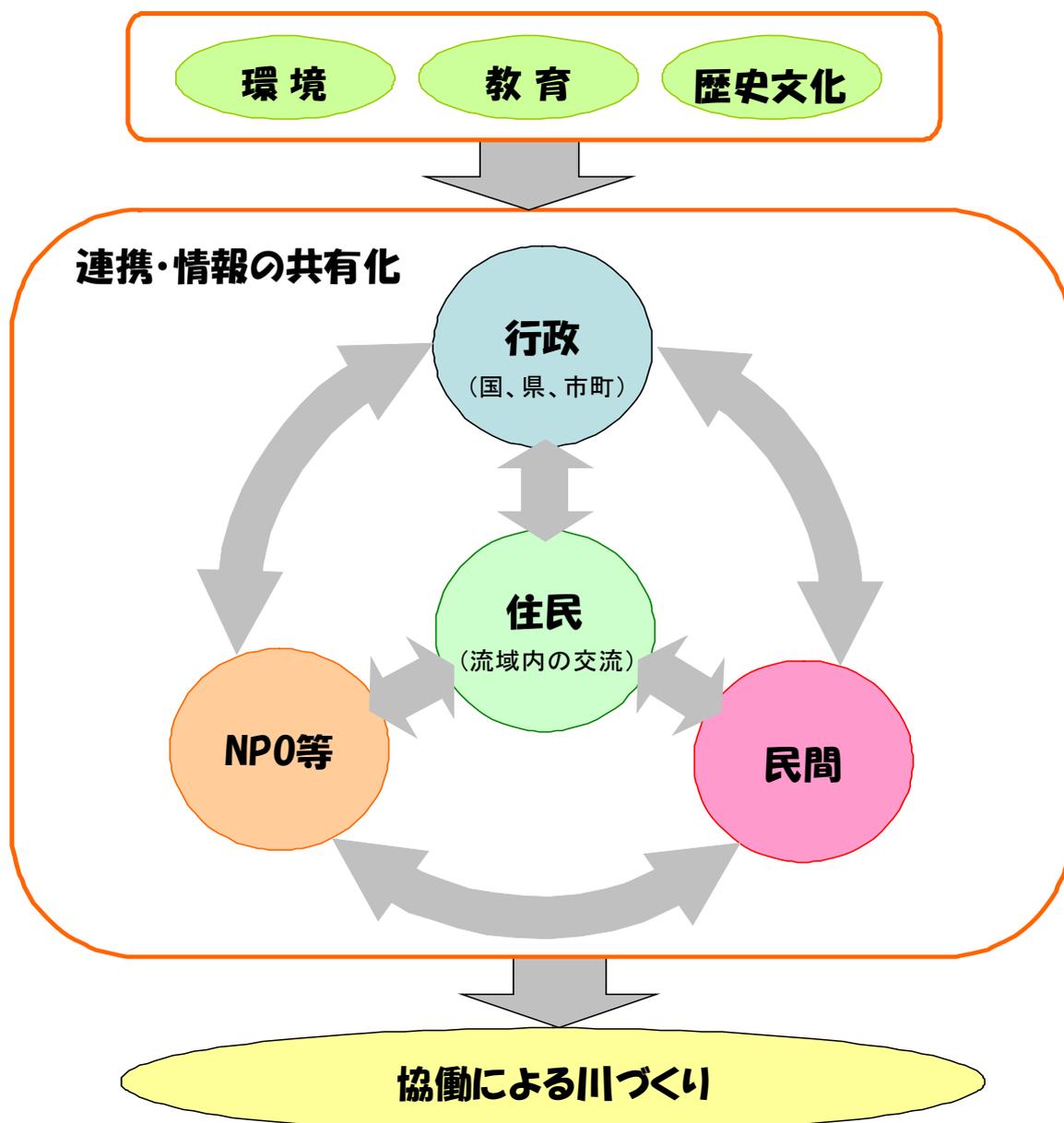


図 5-1-1 協働による川づくりイメージ

5.2 地域住民の関心を高めるための広報活動

嘉瀬川の特性と地域風土・文化を踏まえ、「嘉瀬川らしさ」を活かした河川整備を進めるために、ホームページ・広報誌やラジオ、テレビ、新聞など地元メディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりを図るなど関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進していきます。

さらに、川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習など、水辺での自然体験活動等の機会の提供を支援し、自然体験活動の指導者育成を図るとともに、将来の地域を担う子供達への環境学習を積極的に支援するなど、住民が嘉瀬川への関心を高めるための活動を行います。



図 5-2-1 広報誌「武雄河川ホットニュース」

武雄河川事務所で行っている内容を広報誌として公開しています。(武雄河川ホットニュースはホームページ上でも見ることができます。http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/hotnews/top.html)

5.3 嘉瀬川を通じたコミュニティの形成

今後の高齢化社会においては、災害時に支援を必要とする方々が増加します。特に嘉瀬川流域では低平地部が広く、嘉瀬川からの洪水氾濫以外にも内水による浸水や高潮災害も発生する恐れがあることから、災害時の避難が重要視されます。これらの方々を支援するためには、近隣に居住する方々がお互いの協力して助け合う地域社会を再構築し、地域の防災力を高めて行く必要があると考えます。

また、嘉瀬川を絆とした多様な主体の連携によるコミュニティ(地域共同体)が形成されることは、河川及び流域環境の保全のみならず、世代間交流やひいては文化の継承や発展にもつながります。このため、川づくりが地域の身近なコミュニティの形成、さらには流域全体に広がる大きなコミュニティの形成につながるよう配慮していきます。



写真 5-2-1 さが水ものがたり館 (石井樋公園)

嘉瀬川の学習の場としても利用されています。また石井樋公園とさが水ものがたり館は、歴史と水辺の憩いの場として県内外を問わず利用されています。